

日本産業衛生学会

近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会(事務局)
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学地域健康医学教室内
専用TEL・FAX.0744-22-1801
発行責任者・車谷典男(地方会会長)
<http://www5.ocn.ne.jp/~jsokink/>

第57回近畿地方会総会を迎えて

近畿地方会会長 車谷典男



昨年の地方会役員選挙で地方会長に選出いただきました奈良医大地域健康医学教室の車谷典男(くるまたに・のりお)です。三浦武夫先生、堀口俊一先生、そして圓藤吟史先生など歴代地方会長の優れた見識と強いリーダーシップを思い浮かべると、その重責に耐えうるか不安な気持ちになりますが、会員皆様方からの叱咤激励をいただきながら、与えられた2011年2月までの2年間の任務を全うしたいと考えています。是非よろしくお願い申し上げます。

この機会にこの間の報告と地方会の当面の課題を申しあげたいと思います。

まずは報告です。地方会会則では、会長を補佐し会長事故ある時はその職を代行する副会長を、会長が任命できることになっています。今回、堀口俊一元会長以来、地方会の総務担当幹事として大車輪の活躍をしてこられている清田郁子会員に、その副会長職をお願いし、就任していただきました。また、同じく地方会会則に則り、会長・副会長、そして近畿選出理事(岡田章・山田誠二・大脇多美代・廣部一彦の各理事)の計6名が合意した一定のルールに基づき、代議員の中から24名の幹事を指名して役割分担もお願いし、引き受けていただきました。そして、それらの役割を統括する立場として岡田理事には財務・総務を、山田理事には広報を、大脇理事には部会・研究会を、廣部理事には学術を、それぞれ担当していただいています。

近畿地方会の最高議決機関は年1回の総会ですが、年4回の定例幹事会が極めて重要な機能を果たしています。幹事会機能を一層強化する方策の一つとして、迅速な情報伝達と意見交換ができるよう幹事会メーリングリストを作り、動かし始めています。また、副会長と上記4名の理事と全国の選挙で本部理事会の監事に選出された圓藤吟史会員を加えたメンバーで運

営会議を作り、幹事会の審議事項と報告事項にかかわる論点整理と日常的な事案の判断を、相談しながら行っていくことにしています。

当面の重要な課題としては、本学会の公益法人への移行があります。先ほどの福岡学会で大前新理事長が、来年の福井学会時には一定の結論を出したいとおっしゃっておられたことは、会員の皆様もご承知のことと思います。その決定を待つからという考えもあるかと思いますが、地方会としての意見表明や速やかな対応が可能のように委員会を設置することを、先ほどの幹事会と代議員会で承認いただきました。この委員会の任務には、地方会の会則や各種規約を再点検することも含めています。

そのほかの課題として、地方会ホームページの充実、地方会会費の納入率向上(現行は7割弱)、産業保健歯科会員の増加、産業医学実践講座の継続などもあげられます。欲張らず、少し先を見ながら、闊達な論議と実行力のある地方会を目指していきたいと思います。

会員の皆様方のご支援をよろしくお願い申し上げます。



平成21年度総会議事録

日 時 2009年6月6日(土) 13:00～13:50

場 所 大阪市立大学医学部学舎4階大講義室

1. 開 会

2. 新旧会長挨拶

- (1) 圓藤前会長から2期4年間の会長職にあったことの挨拶があった。
- (2) 車谷新会長から会長就任の挨拶と当面の課題の説明があった。→1頁参照

3. 物故会員の報告

平成20年6月から平成21年4月

福本 龍(ふくもと りゅう)氏

4. 黙 禱

5. 議長選出

森岡郁晴会員(和歌山医大)を選出

6. 総会成立の確認

5月27日現在の地方会員数1317名

出席者73名(委任状400名)

会員の5分の1以上の出席により総会は成立

(地方会会則第18条)

7. 議事録署名人の選出

森口次郎会員(京都工場保健会)

上坂聖美会員(三菱樹脂㈱健康管理グループ)

8. 議 事

(1) 平成20年度事業報告

清田副会長から地方会ニュース第78号(本年5月15日発行)の3頁に掲載された資料をもとに報告。会場からは異議なく承認された。

(2) 平成20年度決算報告

清田副会長から地方会ニュース第78号2頁に掲載された収支報告に基づき報告された。会場からは異議なく承認された。

(3) 平成20年度監査報告

上田美代子監事から、5月20日(水)10時から岡田邦夫監事とともに監査を行い、決算書類にかかわる通帳など証拠書類が適切に管理され、執行が適切に行われていることを確認した旨の報告があった。

(4) 平成21年度事業計画(案)

清田副会長から地方会ニュース第78号5頁に掲載された資料に基づき説明があった。なお、第49回近畿産業衛生学会は当初の予定会場を変更して兵庫県医師会館で開催することの追加説明

があった。近畿産業衛生技術部会は8月2日に開催することを決定した旨の報告も追加された。会場からは異議なく承認された。

(5) 平成21年度予算(案)

清田副会長から地方会ニュース第78号2頁の予算(案)に基づき説明があった。今年度は役員選挙がないため本部からの関連交付金等がなく、前年度より40万円少ない6,927,141円の収入見込みであること、支出に事務局移転にともなう経費30万円見込んでいることなどが説明された。会場からは異議なく承認された。

(6) 第49回近畿産業衛生学会の進捗状況について

西尾久英会長のもと、本年11月14日(土)に兵庫県医師会館で開催に向けて、順調に準備が進められていることの報告があった。なお、全ての発表を聞けるように9時から16時半まで一会場で行うことを計画しているとの説明もあった。

(7) 第50回近畿産業衛生学会の準備状況について

木村隆会長のもと「ピアザ淡海」(滋賀県立県民交流センター)で、来年11月14日(日)に開催することを決定していること、企画について現在検討中であることの報告があった。

(8) その他

出席者からの特に議事の提案はなかった。

9. 議長解任

10. 閉 会

Nakanoshima Clinic 中之島クリニック 開設2周年キャンペーン

PETベーシックコースおよびPETベーシックコース+頭部MRI追加コースを7月～9月ご受診に限り、特別価格でご提供

1. PETベーシックコース

84,000円(税込) 通常価格:105,000円

#検査項目: PET-CT、各種腫瘍マーカー、便潜血ほか

2. PETベーシックコース+頭部MRI

#検査項目: 「1.PETベーシックコース」に加え、頭部MRI・MRA

★PET、MRI、CT対象患者様をご紹介ください。

ご一報いただきましたら迅速に対応いたします。

〒553-0003 大阪市福島区福島2丁目1-2

電話: 06-6451-6100

予約専用: 0120-489-401

E-mail yoyaku@nakanoshima-clinic.jp

URL www.nakanoshima-clinic.jp

講演印象記

第57回近畿地方会

特別講演を拝聴して

全日本空輸(株)

大阪健康管理センター

前田 宏明



本日、特別講演で夏目先生には「昔のうつと今のうつ - 現場での考え方と労災新認定基準について -」のお話を頂きました。その冒頭、先生はまず「精神科医ができることは限られています」と、私の甘い考えを斬って捨てるところから始められました。とは言えそれに続くお話で「今のうつ」は「昔のうつ」と異なり抗うつ薬の有効性が低下しているとか、休務させても逆効果になりかねないとかを聞かされますと、メンタルヘルスケアはやはり精神科の先生におすがりするしかないのでは、という私の情けない思いは強くなるばかりでした。しかしそこは流石に夏目先生、次の「労災認定指針の改正」「職場復帰支援の手引」のお話で、業務による心理的負荷や、心の不調が判明して以降の職場の対応が評価対象として指針内に具体例として明記されているとお教え下さり、それならば我々産業医療スタッフも理解しやすくなったのではと、少々安心させて頂く展開となりました（精神科の先生にとっては、却って安心できるどころではないとのことですが）。とは言え、労災認定判断のストレス評価に際しても評価表を機械的に照合していけるわけではなく、また「新しいうつ」にいたっては障害される領域がある意味で限定的であるが故に症例毎に相違が生じてしまうとのことで、やはり業務による負荷の評価、職場の対応策定、それに対する反応の評価には症例毎に対応せざるを得ないのだと、知らしめられました。精神科の先生に御指導を仰ぐならば、個別症例に接する現場の我々が事前にこれらのことを把握しておかねば、せっかく精神科の先生に頂いたお言葉も活かすことができないと覚悟しておくべきなのでしょう。今回のお話では、残念ながら、この新しい領域を門外漢の我々に十分にわかりやすく説明して頂けるほどの時間は無かったようでしたが、新しいうつの概念や「労災認定指針の改正」「職場復帰支援の手引」という勉強し直す材料はできたものとお教え頂きました。メンタルヘルスケアについて「精神科の先生に一任する」前に、自分でしっかり勉強しておきましょうとお教え頂いたのだとおご報告申し上げます。

第57回近畿地方会

総会シンポジウムを拝聴して

神戸常盤大学

松本 泉美



初夏を思わせる気候の平成21年6月6日、テーマを「メンタル不調者対応にかかわる諸問題—復職支援制度、復職判定、労災認定基準と法的解釈—」として、第57回近畿地方会総会シンポジウムが開催された。この4月に10年ぶりに「精神障害等に係る労災認定」が改正されたこともあり、会場はあっという間に満席となり、参加者の関心の高さが際立った会となった。シンポジウムでは、専属産業医、産業看護職、精神科主治医、弁護士の四者から、復職時の対応についてそれぞれの立場からの事例や話題提供がなされた。専属産業医の橋口先生からは、モデル事例として復職支援制度を経ずに十分な環境調整ができないまま復帰し、再度休職する事例が提示され、現場での受け入れ体制の確立と主治医との連絡調整の重要性が示唆された。産業看護職の鈴木先生からは、復帰後の業務能力の低下を職場が辛抱強く支援して定年退職まで持ちこたえることができた事例や本人の意思と家族の思いの相違から、復職が本人の人生にとって本当に良いことなのかと悩む事例など、産業現場で直面することの多い多様な困難事例が提示され、何が本人の人生にとっての幸せなのか、企業はどこまで個人に対応することができるのか考えさせられるものであった。私自身も類似の経験したことがあり、その頃の状況が走馬灯のように思い出された。精神科医の鍵本先生からは、会社での様子が本人からしか見えない主治医の立場として、治療契約上配慮する点や復職時期の考え方などが提示され、立場の違いを理解しながら、協働していくことの必要性が示唆された。弁護士の山田先生からは、法的な根拠を基に具体的な対応の是非について、合法的な対応と違法となる場合の根拠や考え方について明確な論説がなされた。ディスカッションでは、廣部、鮫島両先生の座長の巧みな進行のもと、職場復帰の可否の判断、環境調整、試し出勤制度、新労災基準への対応など職場復帰時の課題がわかりやすく提示され、今後の対応の道筋が明確になった。終了後の参加者には何か安堵感を得たような表情の方が多く見受けられ、大変学びの多い有意義な会であった。

第82回産業衛生学会印象記

(財)近畿健康管理センター
医療統括本部・特定保健指導G
阿部 志津香



平成21年5月21日に福岡で開催された第82回日本産業衛生学会で私どもの長年の研究成果を基に、生活習慣病と健康に関するテーマとして「肝機能検査値と血糖・脂質・血圧の関係」を含む計3題を演題発表させて頂きました。当日は朝一番であったにも関わらず多数の方に聴講頂き、また座長を初め各先生方より貴重なご意見を頂戴し、今後の研究に活かしていきたいと思いました。

さて会場では、大変興味深いテーマでのシンポジウムや演題が催され、中でも印象に残ったものとして「特定保健指導の事例」「労働者の高齢化」「保健指導の位置付け」がありました。

昨年4月のスタートした特定保健指導の事例では、アウトソーシング先の視点から捉えた評価・成功例・課題点等が多数研究されており、関心の高さが伺えました。

労働者の高齢化については、労働者の1/3は50歳以上であり、加齢による影響を詳しく研究されており、労働者の健康管理について産業保健分野での保健指導に従事している者として、今後大きな課題となる事は必須あり、感慨深いものがありました。

フォーラム「これからの保健指導について」では、私たち保健師は、必要な知識や技術を習得するだけでなく実際に成果を出し、その行動を形式値にする仕組みづくりも必要になるなど、個人のキャリア開発を含みつつも、組織の中でどう育てていくかということが主眼になっていました。普段の仕事の中では目先の仕事に囚われがちで、組織の中での自身の位置付けや力量などが分かりにくく後回しにしがちですが、定期的に自分のキャリアについて振り返る時間や評価体制があれば今後必要と言われている複眼的な視点も養われていくのではないかと思います。また保健指導時の成功・失敗事例を産業保健職で検証することで、より効果的な保健指導を提供していきたいと思いました。

最後に、本学会に参加して、産業保健に携わるいろいろな職種の方より、情報収集ができ今後も労働者の健康管理・疾病予防及び労働力向上に寄与していきたいと考えます。

大阪ガス(株)
人事部健康開発センター
豊川 彰博



今年の日本産業衛生学会は、「超高齢社会を迎える日本 その産業保健戦略は」をメインテーマに産業医科大学産業生態科学研究所労働衛生工学 田中 勇武教授を企画運営委員長として、5月20日(水)～22日(金)福岡国際会議場に於いて開催されました。

この印象記が掲載される頃には、既に終息していることを願いますが、5月16日に神戸で国内発生の新型インフルエンザ症例が確認され、瞬く間に大阪でも多数の症例が確認されたまさにその時でした。日々状況が変化し、多くの企業でもその対応に苦労している中で、残念ながら予定を縮小して、1日だけの参加になりました。

20日夜に福岡に到着、まずは、博多のご馳走と焼酎で鋭気を養いました。翌日は、朝から、ストレス・メンタルヘルスのセッション、午後は、「各世代の労働者に見られるメンタルヘルス不調の特徴と対策」と題したシンポジウムとメンタルヘルス漬けの一日としました。臨床からのデータではない、産業現場からの統計データ、特に、サンユー会HMプロジェクトの、全国44事業所、14万5千人余りの労働者を対象とした調査結果はとても参考になりました。また、筑波大学大学院人間総合科学研究科の先生の発表は、私が現場で直面していることと良く一致するものでした。産業保健の実務は、テキストだけでは対応できないknow-how的な部分が多く、様々な事業所で実践されている対策の実際に触れることができ、有意義な時間となりました。シンポジウムでは、若年労働者、働き盛り層、高齢労働者に分け、それぞれのメンタルヘルス不調を第一線で活躍中の先生方が紹介され、まさに、現場で感じている実情そのもので、理解を深めるのに大いに役立ちました。

メンタルヘルスに限らず、産業保健スタッフに求められる役割が増え続け、実務に追われる中、学術的なアプローチを継続し、その成果を発表されている方々に感心すると共に、いささか、自身のことを反省しながら帰途に着きました。



私たちの職場 (14)

(株) ルネサステクノロジ北伊丹事業所

北伊丹総務部総務課 産業医 白川真紀子

(株) ルネサステクノロジは、2003年日立製作所と三菱電機が設立した半導体専門の会社で、自動車、モバイル、デジタル家電を中心に半導体の設計、製造、販売、サービス提供を行っており、3月末時点で約2万5000人(直轄)の従業員を有する企業です。

女子ソフトボールの日本代表、上野投手や乾捕手、宇津木妙子シニアアドバイザーは当社高崎事業所の所属で、ルネサス高崎の名は皆さんも聞かれたことがあるかも知れません。

北伊丹事業所では主に半導体製品の技術開発をおこなっており、関係会社も含め従業員約2500人の健康管理を専属産業医2名、非常勤産業医1名、看護師1名、保健師1名の計5名のスタッフで担当しています。

当事業所の特徴としては、本年4月の時点で平均年齢42.1歳と壮年層の社員が多く、また技術者が多いということが挙げられます。これは私の印象ですが、技術者は部署毎のチーム制となつてはいますが、基本的に部署中での役割分担が決まっており、開発等の締切りに追われたり、ひとたびトラブルが起きれば自分が中心となってトラブル対応をしなければならないという点で、精神的・肉体的にも負荷がかかりやすい仕事だと思えます。このため、当診療所では、長時間残業者健診を手厚く行うようにしています。北伊丹事業所では、時間外・休日労働が①月80時間を超える場合と、②2～6ヶ月平均で月80時間を超える場合は、本人の申し出の有無に関わらず、医師による面接指導を行っています。また、時間外・休日労働が③3ヶ月連続で月45時間を超える場合は、希望者は医師による面接指導を、面談を希望されない場合でも、診療所に来院していただき、問診表の提出・血圧測定を行っていただくようにしています。職場管理者・総務部・看護師等、皆さんの協力の結果、毎月対象者の受診率はほぼ100%を達成しています。このようにして、長時間残業者健診を手厚く行った結果、早期のうつや睡眠障害が見つかったこともありました。また、その他の利点として、業務上の負担がかかっている社員を注意してフォローすることができること、診療所に足を運ぶ機会を増やしていただくことで、敷居が低くなり、社員が相談しやすい環境ができること、などが挙げられます。



北伊丹事業所の風景

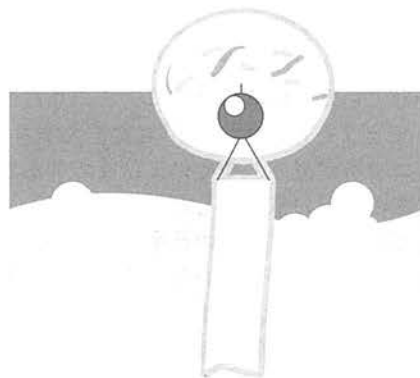


診療所の風景

また、私は産業医として、専門医(かかりつけ医)との連帯を行うように心がけています。特にメンタルヘルスの不調に悩んでいる社員には、本人から同意を得た上で、主治医に現状の報告を行うようにしています。これは、主治医の先生が短い診察時間の間でも本人の状況を十分に把握できるように、また本人にとっ

てもあらかじめ状況が伝わっていることで、診療時間を有効に活用することができるからです。さらに、主治医の先生と連絡をとることは、職場での環境調整やフォローアップをスムーズに進める上で不可欠と考えています。

これからも、社員が気軽に相談しに来ることができる診療所を目指して、スタッフが一丸となってトータルに社員の健康管理をおこなえるよう、また今後はさらなる労働衛生教育に力を入れていけるよう、日々精進していきたいと考えています。



会員の声

産業衛生に期待したいもの



神戸製鋼所 高砂製作所
安全衛生室内 診療所
矢形 義近

私たちは、産業保健専門職として、企業の利益追求活動からは離れた脇役的な業務を行なっているという、多方面から非難や中傷の声が上がってくるでしょう。私は、産業保健活動が決して脇役ではないと思っています。かっこよく言えば、企業のCSRが達成されるように、事業主に課せられた安全配慮義務が全うされるように、人的資源管理の中で潜在資源としての健康が確保されるように、私たちが専門的な立場からサポートすることだと思います。

以前は、産業医が企業においてどんな立場だったかは知りませんが、今日では産業保健業務の一翼を担う重要なポジションとして認知されてきているようです。そうすると、私たち産業保健職は、単に法律で保護されているからとか、使命感の大義名分を振りかざしているからというのではなく、真に経営層や社員の顧客満足以んてに依る存在であるべきと思います。

今、私たちは、会社のために何ができるのかということを考えていくのも大切ですが、立場を変えて私

ちが事業主だったら何を産業医や産業保健職に期待したいかについて考えてみたいと思います。

会社の中に製造ラインとかオフィスを設置しようとするれば、さまざまな法的要求事項を満足させなければなりません。私は社長だが知らないこともいっぱいある。だから産業保健職から専門的なアドバイスが欲しい。しかし余裕があるわけではないから、法的要求事項を満足させるにしても費用は抑えたいのが本音です。次に社員という資源を有効に活用したい。いい社員がわが社に入り、願わくは怪我や病気もせず、元気で幸せに働いてほしい。どうすればいいのだろうか。肥満があり、少く健康診断の結果が悪かろうとそれだけで急に絶不調にはならないが、心っていうものは急におかしくなるからここは何とかいい知恵がほしい。そんなところが平均的な事業主かもしれません。実際、日経連等による調査でも、メンタルヘルス対応が要求事項のトップだそうです。そうすると、産業保健の業務もそれに合わせていくことが望ましいですね。さまざまな専門的な学会において、有効とされるツールは提唱されていますが、事業主が飛びつきたくないようなものは提唱されていないように思います。従業員側ですら、あまり興味を引かないのが現状のようです。

産業保健に力を注いでも利益を生み出せなければ、事業主や従業員から好まれないと思います。従って、好まれる産業保健であることを期待してみたいと思います。

昔とった杵づか



中央労働災害防止協会
大阪労働衛生総合センター
住野 公昭

どこかで聞いた名前？そうです、平成12年まで近畿産業衛生学会でお世話になりました住野です。私自身も忘れかけていた労働衛生分野に、この4月から片足だけ戻ってきました。大学（甲南女子大学看護学科）での講義コマ数が減り、ややのんびりできるかと考えていた矢先の囑託の依頼でした。

赴任してみて本センターの仕事の一番は、ハンコ押しでした。することはいろいろあるのですが、まだ掌握できていません。近畿産衛学会で顔見知りの河合氏が、例の調子で元気に勤めていまして互いに歳をとったナアと（彼はさほど変わっていませんが）眺めあいました。この原稿も彼の依頼です。

懐かしいのは、当センターにガスクロ、液クロ、原

子吸光、GC-MSなどの分析機器があり、かつて昭和40年代から60年代までそれらを駆使して環境試料や生物試料の分析をしていた頃を思い出しました。故喜田村教授の下ではやりの公害研究や中毒実験に費やした20年でした。各種研究費をもらって2億円以上の機器があったのでしょうか。それもPCRが全盛のこのごろ、ほとんど廃棄処分になったそうです。処分といえば、現大学に置いていた労働衛生関連テキストや講義資料なども、看護学科での産業保健の講義は1コマのみでもう使うことがないと処分しかけたところ、何かの役に立つかと、急速、大学から本所長室の本棚に持ってきたところ。処分はもう少し先にすることにしました。

いずれにしても、今までと似ているようで似ていない大阪勤め（神戸から）のスタートについたところです。

会員の声

保健師としての10年間を振り返って

川崎重工明石健康支援センター
工藤 加奈恵

私にとって、今年は「保健師生活11年目」という「節目」の年で、特別な思いがあります。

私は、この10年間のうち、前半を健康保険組合、後半を事業所の保健師として勤めてきました。前半の健康保険組合（以下、健保）では、被保険者・被扶養者を対象に、健康教室や高齢者訪問等を行いました。そこでの収穫は、健康保険制度の仕組みや医療費の現状を理解できただけでなく、幅広い年代の方と接し、それぞれの悩みや思い等に触れることができた点です。

一方、事業所へ転勤後は、「働く従業員の健康管理を行う」という、やや異なる立場となりました。当初は、健保との勝手の違いに戸惑いましたが、直に従業員の生活ぶりが見える分、より実情に沿った健診や保健指導を行なえるようになったと思います。

そこで最近になり、私自身の「保健師としての姿勢」

が変わりつつあることを実感しています。

以前までの私は、相談者に対し「前向きな気持ちになってほしい」という「解決型」で接していました。その思いが強い分、相談者と一緒になって一喜一憂していたため、精神的に辛い時期もありました。

しかし、経験を積む中で、次第に

- ①どんな人にも良い波・悪い波がある
- ②人はどんなに困難な状況にあり、時間がかかったとしても、必ず良い方向へ進む
- ③どんな人にも自ら「変わりたい」と思う瞬間があることを感じるようになりました。

最近では、相談者の状態をありのままに受け止め、寄り添うようにしています。そして、その方をひたすら見守り、変わりたいと思った瞬間を逃さず、共に解決策を考え、周囲（職場・人事・外部機関等）とも連携を図るように努めています。

昨今、安全・健康配慮への理解が進むとともに、事業所における産業保健活動が重要視されています。

その期待と動向に応えられるよう、今後も一保健師として「人との関わり」を大切に、日々精進していきたいと思っています。

メンタルヘルス研究に 従事して



和歌山県立医科大学医学部
衛生学教室
吉益 光一

縁あって和歌山県立医科大学衛生学教室に教官として迎えられ、早いもので5年が経過しました。元々精神科の臨床に携わっていたのですが、学部学生時代に経験した基礎配置がきっかけで公衆衛生学に興味を持ち、2年間の研修医生活の後、九大公衆衛生学教室の大学院生となりました。大学院生時代に与えられた研究テーマは「虚血性心疾患と心理社会的ストレスの関連性」であり、身体疾患と心理社会的ストレスの関係を見直す上でも大いに勉強になりました。大学院で学んだ疫学的方法論を、臨床に戻ってから臨床研究に活かしたいと考えていたのですが、再び社会医学に入るきっかけとなったのは、精神保健福祉センターでの1年間の行政経験でした。精神障害に対する偏見や差別、リハビリの困難さを目の当たりにした時に、まだまだ精神障害には一次から三次予防にいたる全ての段階で、十分な疫学的エビデンスが不足していることを痛感しました。

日本産業衛生学会でもメンタルヘルス関係の演題が昨今非常に増えていますが、現代は家庭、学校、職場、そして地域社会において、かつてないほどメンタルヘルスの重要性が叫ばれている時代であるといえます。物質的に満ち足りている成熟した社会の宿命かもしれません。そういう意味では飢餓や戦争、極度の貧困に苦しむ開発途上国からみれば贅沢な悩みなのかも知れません。さらに予防対策も身体疾患とは異なった、社会的要素も加味した包括的な対策が求められます。

最近感じるのは従来からある一般的な偏見以外に、メンタルヘルス問題について専門家も一般の人も過剰に反応して、その対策が変な？方向に進んでいないかという点です。例えば職場のうつ病問題でも、最近では未熟性格を発症基盤とする「新型うつ病」なる概念が提唱されていて、うつ病の人は自己中心的でわがままのような話をよく耳にしますが、全てのうつ病の人がそうであるはずがなく、このような概念が浸透してしまうと、今度は精神疾患に対する「新型偏見」がまかり通ってしまうのではないかと懸念します。メンタルヘルスという難しいテーマに自ら主体的に取り組む立場となって、行く手の困難さを肌身で感じています。

今後とも皆様方のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

技術部会からのお知らせ

有害物質の曝露の影響は工場の作業員から一般住宅の住居者および学童まで及ぶようになってきている。今回技術部会ではこの問題に目を向けシックハウスの有害性と測定方法および学校での対策について8月2日(日)下記の内容で研修会を開催します。研修会費は会員の皆様は無料ですので是非ご参加ください。

日本産業衛生学会近畿技術部会、学校薬剤師会近畿ブロック合同研修会

—— 環境における有害化学物質の影響討論会 ——

日 時：8月2日(日) 午後1時15分～4時30分
(受付開始12時30分)

場 所：中央労働災害防止協会、大阪労働衛生総合センター
西区土佐堀2-3-8



講演内容：1. 「シックハウス症候群—住居・学校調査事例を交えて」

司会 和歌山県立医科大学

教授 宮下 和久

演者 北海道大学 教授 岸 玲子

2. 「学校保健安全法の改正について」

司会 京都府学校薬剤師会

会長 守谷 まさ子

演者 兵庫教育大学 教授 鬼頭 秀明

3. 「揮発性有機化合物の測定方法について」

司会 神戸大学 名誉教授 住野 公昭

演者 中災防・大阪労働衛生総合センター

河合 俊夫

4. 総合討論・大阪センター分析室見学

事務局 大阪労働衛生総合センター

担当 河合 Tkawai@jisha.or.jp

阿部 Kabe@jisha.or.jp

TEL：06-6448-3450

産業看護部会からのお知らせ

平成21年度 第2回定例研修会

日 時：平成21年10月31日(土) 13:30～16:00

会 場：エルおおさか本館7階 708号室

テーマ：専門職としての文章の書き方、論文の書き方

講 師：森岡 郁晴先生(和歌山県立医科大学)

保健看護学部 教授)

受講料：無料

共 催：大阪産業保健推進センター

*産業看護職継続教育システム単位認定申請中

*研修会場が前号の78号では薬業会館としていましたが、エルおおさかに変更になりました。ご注意ください。

事務局移転のお知らせ

今般、奈良県立医大の車谷典男近畿地方会長のもとに日本産業衛生学会近畿地方会事務局が移転いたします。

大阪市大では、近畿地方会事務局を平成11年から足掛け10年担当させていただきました。平成8年の労働安全衛生法改正によって産業保健への注目度が増し、それに伴って近畿地方会活動も活発になりつつあった時期でもありました。大阪市大が担当しましたこの10年間には、2回の日本産業衛生学会と2回の産業医・産業看護全国協議会が近畿で開催されております。各会に微力ながら事務局としてお手伝いさせていただきましたが、会員皆様のご支援とご助力によってすべて成功裏に終わっている事に謹んで御礼申し上げます。6月中に会計処理および届出に必要な事案等の手続きも完了できるよう鋭意努力しておりますが、このニュースが皆様のお手元に届く頃には事務局の移転が完了していると思います。

本当に長い間ありがとうございました。

今後とも近畿地方会事務局へのご支援ご助力を何卒よろしくお願い申し上げます。

(清田郁子)

新事務局

〒634-8521(住所省略可) 奈良県橿原市四条町840

奈良県立医科大学地域健康医学教室内

専用TEL&FAX 0744-22-1801

専用のメールアドレス

chihokai@narmed-u.ac.jp

第14回近畿産業医部会 研修会を終えて

実行委員長

(財)京都工場保健会
森 口 次 郎



平成21年6月13日に日本産業衛生学会近畿地方会・産業医部会主催の第14回近畿産業医部会研修会を大阪市立大学にて開催しました。今回のテーマは「産業医の生涯教育システムを考える」で、157名の参加をいただきました。

山田誠二産業医部会長から挨拶を頂いた後、産業医大・産業生態科学研究所・所長の東敏昭先生より基調講演「世界および日本の産業医生涯教育制度と日本への提言」を頂戴し、諸外国の資格要件やEUの産業医研修統一の計画、産業医に必要な技能など幅広くご講演いただきました。

シンポジウムは東レ中西一郎先生と森口の座長で行い、近畿産業医部会 山田誠二先生から大阪推進センターでのケーススタディ、職場診断などを、高山内科高山茂先生から嘱託産業医経験から経営感覚や現場の熟知と臨床能力の重要性を、京都南地域産保センターコーディネータ平林裕先生からチェックリストを用いた業務標準化の試みなどを、(株)堀場製作所総務部 山下泰生先生から企業側の期待として作業やハザードへの理解、コミュニケーションの重要性などを、大阪産保推進センター 大脇多美代先生は産業看護職の教育制度の現状や近畿産業看護部会の取り組みなどを、それぞれご紹介いただきました。総合討論では、産業医に求められる技能について合意を得ることが出来、大変有意義な研修となりました。



会員の異動 (敬称略)

〈新入会員〉

川畑久子	全国土木建築国保関西事務所
星野立夫	関西電力(株)
岩下璃江子	パナソニック健康管理センター
井上綾	医)協仁会小松病院看護部
梅本優子	みずほ健保大阪健康開発センター
駒村和雄	武田薬品工業大阪診療所
鹿野麗子	帝塚山大学大学院人文科学研究所
吉岡敦子	野村証券(株)大阪健康管理センター
大竹典子	JALグランドサービス大阪
好光弦太	大阪府警健康管理センター
山田美月	大阪府警健康管理センター
平松京子	大阪府警健康管理センター
新坂幸	大阪府警健康管理センター
森本慎也	大阪府警健康管理センター
中平健太郎	大阪府警健康管理センター
鈴木雅代	大阪府警健康管理センター
赤松祐子	明治安田生命健保大阪診療所
甲田美美香	パナソニック産業衛生科学センター
城下知子	パナソニック産業衛生科学センター
南口尚代	日新製鋼(株)堺製造所
作本貞子	NPO大阪ヘルスケアネットワーク普及推進機構
米山貴子	大阪労災病院勤労者予防医療センター
田野中恭子	京都橘大学看護学部看護学科
上瀧里美	(株)シロキ工業大阪工場
高野邦子	(株)ワコール
日向和美	(株)大丸心斎橋店
橋本英治	
並河啓	関西アーバン銀行健康開発センター
後藤豊子	関西空港税関支署診療所
福元かほり	シスメックス株式会社
三浦康代	白鳳女子短期大学専攻科
弘野慶次郎	近畿日本鉄道大阪健康管理センター
磯島康史	近畿健康管理センター大阪事業部
金光文和	近畿健康管理センター
宮上純子	近畿健康管理センター神戸診療所
一瀬葉子	近畿健康管理センター
上田晴三	上田歯科医院
保田淳子	滋賀医科大学

(平成21年6月現在)

第19回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会のご案内

メインテーマ

職場における「健康力」と産業保健

企画運営委員長 広瀬俊雄

(仙台錦町診療所・産業医学センター)

1. 会期：学会 平成21年11月5日(木)～8日(日)
2. 会場：秋田県総合保健センター・秋田県医師会館 会議室
〒010-0874 秋田県秋田市千秋久保田町 6番6号
TEL：018-831-2011

3. 開催概要

- 平成21年11月5日(木) 13:00～
6日(金) 9:10～11:00
4部会合同セミナー「現場改善4部会合同研修」・ワークショップ
- 平成21年11月6日(金) 13:00～17:00
実地研修(事業所見学・職場巡視) 幹事会、自由集会
- 平成21年11月7日(土) 13:00～17:00
シンポジウム「職場における自殺予防」9:30～11:50
部会企画14:10～17:00 ポスターセッション
- 平成21年11月8日(日) 9:30～13:30
メインシンポジウム「働く人の健康を生み出す職場づくり」
閉会式

4. 第19回 日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会事務局

事務局長 藤田 幸司
〒010-8543 秋田県秋田市本道1-1-1
秋田大学大学院医学系研究科 社会環境医学系公衆衛生学内
(4月1日より名称が変更となりました。)
TEL：018-884-6087
FAX：018-836-2609
E-mail：ncopn19-office@umin.ac.jp

第83回日本産業衛生学会のご案内

メインテーマ

21世紀の新しい産業保健
ーリスク管理から疾病予防までー

企画運営委員長 日下幸則

(福井大学医学部 国際社会医学講座 環境保健学領域 教授)

1. 会期：学会 平成22年5月26日(水)～28日(金)
特別研修会 5月29日(土)
2. 会場：フェニックス・プラザ
福井市田原1丁目13-6
福井県国際交流会館
福井市宝永3丁目1-1

3. 今後のスケジュール

- 【演題申込期間】
平成21年11月19日(木)～12月17日(木)
- 【委員会・研究会等開催申込期間】
平成21年11月19日(木)～12月17日(木)
- 【共催セミナー申込締切】
平成21年12月11日(金)
- 【機器展示・書籍展示・広告申込締切】
平成22年1月8日(金)
- 【参加者事前登録締切】
(学会参加・懇親会・特別研修会参加)
平成22年2月26日(金)

4. 本部事務局

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3
福井大学医学部 国際社会医学講座 環境保健学領域内
TEL：0776-61-8338 FAX：0776-61-8107
E-mail：sanei@med.u-fukui.ac.jp


5. 登録事務局

〒530-0001 大阪市北区梅田2丁目2-22
ハービスENT11階
株式会社ジェイコム コンベンション事業本部内
TEL：06-6348-1391 FAX：06-6456-4105
E-mail：83sanei@jtbcom.co.jp

ポカリスエットは地球にやさしい【エコボトル】に

1本あたりのペット樹脂 約9g減量 (27g→国内製造最軽量18gに)	年間でペット樹脂 約2700t節約 (年間3億本生産の場合)
CO2排出量換算で 約8300t削減 (約1500世帯分の 年間排出量に相当)	平成19年度容器包装3R推進 環境大臣賞製品部門 最優秀賞受賞

大塚製薬株式会社大阪支店
〒530-0005 大阪市北区中之島6-2-40
TEL:06-6441-6532




第49回近畿産業衛生学会(第2報)

学会長 西尾久英

(神戸大学大学院 医学研究科 疫学分野 教授)

1. 開催日時と場所

期日：平成21年11月14日(土)

会場：兵庫県医師会館

〒651-8555

神戸市中央区磯上通6-1-11

2. 演題募集要項

(1) 演題申し込み

①演題名、②発表者名、③所属、④簡単な要旨、⑤連絡先等を9月12日(土)までに学会事務局宛申込んで下さい。「演題申込ファイル」をmyeong@med.kobe-u.ac.jpに請求して頂ければ、添付ファイルで返信させていただきます。添付ファイルにご記入の上、お申込み下さい。本ニュース同封の演題申込み用紙にご記入いただき、FAXでお送りくださっても結構です。

(2) 発表抄録原稿・概要原稿

申し込み受理後、学会事務局から「発表抄録原稿用紙(1600字以内、プログラム用)」と「概要原稿用紙(400字以内、学会誌掲載用)」の2つのファイルをEメールに添付して送信します。それぞれのファイルに原稿を作成し、Eメールで返信ください。原稿の締切りは10月16日(金)17時です。

(4) 口演発表用Power Pointファイル

発表は口演で、一演題11分(口演7分、質疑4分)の予定です。発表用ファイルは、Windows XPのPower Point 2003にて作成くださって、11月6日(金)17時までに事務局宛にお送り下さい。Eメール添付か、またはCD郵送でお願いします。

3. プログラム(予定)

9:30～12:00 一般演題(口演)

12:05～12:35 幹事会

12:40～13:10 代議員会

13:15～14:15 特別講演

座長 西尾久英(神戸大学)

「中小企業の労働衛生の現状と課題」

鈴木克司(兵庫県医師会)

14:20～16:50 シンポジウム

座長 島正之(兵庫医大)

若林一郎(兵庫医大)

「新型インフルエンザ対策」

押谷仁(東北大学)

田所昌也(兵庫県疾病対策室)

浜田千雅(大阪ガス(株))

17:00～18:30 懇親会(神戸東急イン)

4. その他

- ・特別講演・シンポジウムに関しては、日本医師会産業医研修の単位認定(基礎研修(後期)または生涯研修(専門)の3単位)、日本産業衛生学会産業看護職継続教育(実力アップコース)単位認定を申請中です。
- ・学会参加申込みは学会当日受付いたします(事前申込みは必要ありません)。
- ・学会参加費は日本産業衛生学会の学会員1000円、非学会員2000円です。日本医師会産業認定単位希望者は参加費プラス3000円となります。懇親会費は3000円です。

5. 学会事務局(演題申込み先及び問い合わせ先)

神戸大学大学院医学研究科疫学分野

第49回近畿産業衛生学会事務局 西尾久英

〒650-0017 神戸市中央区楠町7-5-1

TEL:078-382-5542 FAX:078-382-5559

E-mail: myeong@med.kobe-u.ac.jp

代議員会議事録

日時 2009年6月6日(土) 12:20-12:50
場所 大阪市立大学医学部学舎4階小講義室1

1. 開会
2. 代議員会の成立
5月27日現在の代議員数113名
出席32名(委任状45名)
現在数の過半数の出席により代議員会は成立(地方会会則第13条)
3. 物故会員の報告(総会議事録参照)
4. 新旧地方会長挨拶
5. 議長選出
森岡郁晴会員(和歌山医大)を選出
6. 議事(詳細は総会議事録参照)
 - (1) 平成20年度事業報告
 - (2) 平成20年度決算報告
 - (3) 平成20年度監査報告
 - (4) 平成21年度事業計画(案)
 - (5) 平成21年度予算(案)
 (1)から(5)はいずれも異議なく承認された。
 - (6) 第49回近畿産業衛生学会(神戸)の進捗状況の報告
 - (7) 第50回近畿産業衛生学会(滋賀)の準備状況の報告
7. 議長解任
8. 閉会

- (6) 第49回近畿産業衛生学会(神戸)の進捗状況
- (7) 第50回近畿産業衛生学会(滋賀)の準備状況以上の詳細は総会議事録参照
- (8) 地方会総会特別講演等の参加費について
総会会場としている大阪市大の大講義室等について使用料(11700円/h)が今年から徴収されることになったこともあり、地方会の収支を安定させるために、会員からも特別講演からの参加費を徴収するか否かについて論議されたが、会費納入率を向上させる努力を条件に徴収しないこととなった。
- (9) 第57回職業・災害医学学術総会からの寄付依頼について
地方会会則の規定にないため支出しないと決定。
- (10) 地方会会則等の確認作業について
宮上総務担当幹事から地方会則等について本部規定や各規定間との整合性について報告があった。また、本部が公益法人への移行を予定していることから地方会においても準備が必要との報告があった。地方会長から次項(11)と合わせて、宮上幹事を委員長とした検討委員会の立ち上げが提案された。委員の人は地方会長と理事等で行うことも了承された。
- (11) 昨年度に実施された役員選挙について
森岡選挙管理委員長から昨年実施した役員選挙の改善点などが報告された。

幹事会議事録

平成21年度第1回定例幹事会

日時 2009年6月6日(土) 11:00-12:10
場所 大阪市立大学医学部学舎18階会議室
出席: 車谷 清田 大脇 岡田章 廣部 山田 植本
西尾(代理) 森岡 河合 夏目 宮上 上田
圓藤 木村 久保田 河野(代理) 佐野 鮫島
竹村 日高 藤岡 宮下
欠席: 広田 埴田 小泉 中西 藤吉
(敬称略・順不同)

1. 報告
 - (1) 物故会員の報告(総会議事録参照)
2. 議事
 - (1) 平成20年度事業報告
 - (2) 平成20年度決算報告
 - (3) 平成20年度監査報告
 - (4) 平成21年度事業計画(案)
 - (5) 平成21年度予算(案)
 (1)から(5)はいずれも異議なく承認された。

編集後記

「油断大敵」という諺の通り、季節はずれで、準備が整っていないところに新型インフルエンザの流行が始まりました。流行前、会社や行政の反応が鈍かったので、今になって慌てる担当者にいやみを言う毎日です。一方、流行した一部の自治体や医師会が厚生労働省の指示に反して実態に即した行動を取ったことに、成長を感じました。現在、近畿地方は沈静化のようですが、他の地域では発生が続いています。パンデミックにも「備えあれば憂いなし」です。(木村 隆)

編集委員(五十音順)

大脇多美代(編集責任)	河合 俊夫
木村 隆	久保田昌詞
中西 一郎(広報事務局)	藤岡 滋典
藤吉奈央子	宮下 和久
山田 誠二(編集総括責任)	